
神様生徒会 2

琢斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神様生徒会 2

【Nコード】

N1089I

【作者名】

琢斗

【あらすじ】

今まで数々の罪を犯してきた学生2人の罪滅ぼしは生徒会役員になることを報告された2人の運命は…。

罪と罰

桜田^{サクラダ}琴美^{コトミ}が転校して来てから一週間が過ぎたある日。いつものように友達^{アメリ}の雨木^{アメギ} 慧^{サトル}と共に職員室に呼び出された。

「なんで呼ばれたか分かりますか？」

担任^{クゼ}の久瀬^{リョウイチ}亮一が聞いてきた。

「分かったら苦勞はしませんよ。」

「あなたたちはことあるごとにいたずらをしてくれますから。罰を与えなくてはなりません。」

「「そんなのつてありかよ！」」

「はい。さすがに入学してから。これまでに何回指導を受けたと思っ
っているんですか。」

「何回でしたっけ。125回目までは数えていたけど、そこからは
…ちよつとね。」

「523回ですよ！ 半端じゃないんですから、退学にならないだ
けまじな方です。」

「う…で何ですかその罰って。」

慧が聞いた。

「はい、それなんですがあなた達には桜田さんと一緒に生徒会に入ってもらいます。」

「え〜〜〜〜！！！！」

2人は同時に叫んだ。

「俺たちに生徒会選挙に出て役員をやれだって？ そんなの無理に決まっているじゃないですか。」

「君たちの立会演説の内容は僕が考えておきましたから。」

久瀬先生は微笑みながら言った。

「そんな〜。そりゃないよ。」

2人の嘆きの声だけが、職員室に残った。

罪と罰（後書き）

全作同様の短い小説になってしまいましたが、読んで下さった読者の皆様のために1日でも早く続きを出して生きたいと思っていますので、今後ともぜひ読んで下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1089i/>

神様生徒会 2

2010年12月5日15時31分発行